

## 6. 神経系の疾患 (アルツハイマー病を含む)

### 文献

古橋裕子. アルツハイマー病の BPSD に対するリスペリドンと抑肝散の治療効果. 漢方医学2010; 34: 120-1.

### 1. 目的

抑肝散とリスペリドンの BPSD に対する治療効果の評価

### 2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

### 3. セッティング

あさひ病院精神科・心療内科・老年精神科

### 4. 参加者

2008 年 1 月から 2009 年 1 月までに入院した DSM-IV と ICD-10 の各診断基準にて AD と診断された 20 名

### 5. 介入

Arm 1: 抑肝散 7.5 g/日 4 週間 (メーカー不明) 10 名

Arm 2: リスペリドン 0.5 mg/日 4 週間 10 名

### 6. 主なアウトカム評価項目

NPI (Neuropsychiatric Inventory, 精神症候評価) と CMAI (Cohen-Mansfield Agitation Inventory, 認知症における行動障害評価) により評価。

### 7. 主な結果

リスペリドン及び抑肝散群共に NPI スコア、CMAI スコアにおいて有意に改善を認めた ( $P < 0.01$ )。

### 8. 結論

抑肝散は BPSD に対し、リスペリドンと同等の効果を示す。

### 9. 漢方的考察

なし

### 10. 論文中の安全性評価

リスペリドン群では、鎮静、疲労倦怠感、傾眠、便秘の有害事象を認めたが、抑肝散群では、有害事象は認められなかった。

### 11. Abstractor のコメント

本論文は、アルツハイマー病の周辺症状に対する抑肝散の効果を論じたものである。近年、抑肝散が認知症の患者に盛んに投与されるようになってきているが、その流れの中にある論文である。漢方医学の視点からは、抑肝散は怒りの感情の抑制に効果があると考えられている。特に、周辺症状の中でも興奮性については介護者の負担軽減に繋がると考えられ、抑肝散の効果に期待するところである。本論文においては、データが掲載されていなかったが、特に抑肝散は CMAI の攻撃的行動の叩く、蹴る、つかみかかる、ひっかく、壊すなどの症状、非攻撃的行動の何度も同じ行為を繰り返す、ひっきりなしに質問するなどの症状を有意に改善するという記述があり、これは、抑肝散の効果そのものを示していると考えられる。詳細な報告を期待したい。

### 12. Abstractor and date

中田英之 2011.1.12, 2013.12.31